

令和7年度「#あおばな in 三沢高校」開催概要

県内の高校生の皆さんに、知事との意見交換を通して県政を身近に感じてもらうとともに、新鮮な意見・発想や県政に対する期待等を把握し、開かれた県政の推進と今後の県政運営の参考にするため、県民対話集会「#あおばな～青森・未来・対話～」を下記のとおり開催しました。

○日時：令和7年10月31日（金）13：30～14：50

○場所：県立三沢高等学校 第1体育館

○参加生徒：1学年 220名

＜生徒との意見交換＞

知事と生徒の皆さんが以下の内容について対話しました。

- ①教員の労働環境
- ②医療従事者が県内で働く上での魅力
- ③公共交通の利便性向上
- ④若者の定着・還流促進策及び都市機能の集約
- ⑤保育士の担い手不足や処遇改善

※知事から生徒の皆さんへのコメントの一部を紹介します。

- ・将来、自分がやりたい仕事を考えるとき、労働環境など心配ごととはたくさんあると思うが、そういう環境は自分自身を変えていくというように物事を考えてほしい。自分で突き詰めて、心の底からやりたい仕事を追及していくことが大事。
- ・私は皆さんが自由に生き生きと人生を歩んでくれたらと願っている。たとえ県外で働くことになったとしても、生まれ育った青森のことを忘れることはないと思うので、いつか青森のために何かできるかもしれないと思ってくれると心強い。また、青森では何もできないとは思わないでほしい。自分で何かを立ち上げたり作ったりすることは、誰もやっていないフィールドの方がやりやすい。
- ・社会にはベルトコンベアはなく、必要な部品は自分で走って取りに行かなければいけない。そして、AIの普及によりこれからの時代のライバルは人ではない可能性もある。そういうことを意識しながら、自分の生きていく道を探してほしい。
- ・これから学校生活や進学、就職でいろんな壁に当たると思うが、対話こそ皆さんの新しい未来を切り開いていくことになると思うので、今日学んだことを大切にしてほしい。

